

取扱説明書

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

目 次

マニュアルのご紹介	
本書をお読みになる前に	3
1. 必ずお読みください	14
疲れにくい使い方	14
使用上のお願い	14
液晶ディスプレイの回転について	16
電源を入れる	17
セットアップ	18
電源を切る	20
2. 必要に応じてお読みください	21
指紋認証について	21
BIOS の設定をご購入時の状態に戻す	34
マイリカバリについて	35
リカバリについて	38
リサイクルについて	40
お問い合わせ先について	

マニュアルのご紹介

※お使いの機種によりイラストは異なります。

■添付の紙マニュアル

『箱の中身を確認してください』



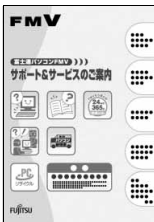
添付の機器、マニュアル、CD などの一覧です。
ご購入後、すぐに、添付品が揃っているか確認してください。

『取扱説明書』（本書）



使用上のご注意、パソコンを使うための準備、ご購入時の状態に戻す方法などを説明しています。

『サポート＆サービスのご案内』



ユーザー登録のしかた、お問い合わせのしかたについて説明しています。

■電子マニュアル

□『ハードウェアガイド』 **PDF形式**

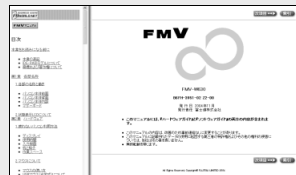
本体各部の名称と働き、機器の取り付けや取り扱い、仕様などを説明しています。

□『ソフトウェアガイド』 **PDF形式**

本パソコンでお使いになれる機能や、ソフトウェアについて説明しています。

□『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』 **PDF形式**

□『内蔵モデムをお使いになる方へ』 **PDF形式**



●「スタート」ボタンからご覧ください

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「富士通 FMV マニュアル」の順にクリックし、ご覧になりたいマニュアルをクリックします。



本書をお読みにする前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」をよくお読みにし、理解されたうえで本製品をお使いください。また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- 修理後は、本製品の内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、CD などの別媒体に複製して、保管しておいてください。
- 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の保有期間は、製造終了後5年です。

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本製品にインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

- 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本製品でのみ使用できます。なお、お客様は本製品のご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
- バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
- 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
- 複製
(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
- 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェア（本製品に添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本製品に添付されている媒体を本製品とは別に第三者へ譲渡することはできません。
- 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
- 保証の範囲
(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本製品をご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本製品をご購入いただいた日から 1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
(2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記 (1) の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
- ハイレセイティ
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイレセイティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイレセイティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイレセイティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております (<http://www.microsoft.com/japan/>)。

お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。

したがって、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的には推奨いたします。

ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前にはサービスパックの「Readme.txt」を必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。

データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。

データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

添付の CD-ROM など大切に保管してください

これらのディスクは、本製品に入っているソフトウェアをご購入時と同じ状態に戻すときに必要です。

液晶ディスプレイの特性について

以下は、液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- 本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

なお、低輝度で長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になることがあります。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

注 意

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

本製品は、マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

24 時間以上の連続使用について

本製品は、24 時間以上の連続使用を前提とした設計にはなっていません。

本製品の使用環境は、温度 5 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（非動作時）です（ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）。

本製品は、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

本製品は日本国内仕様であり、海外での保守サービスおよび技術サポートは行っておりません。

無線 LAN について

本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

- 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
- その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」

- 本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠（5GHz 帯）では見通し半径 15m 以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠（2.4GHz 帯）では見通し半径 25m 以内となります。ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場もありますのであらかじめご了承ください。
- IEEE802.11g と IEEE802.11b が混在する環境では、IEEE802.11g は IEEE802.11b との互換性をとるため、IEEE802.11g 本来の性能が出ない場合があります。IEEE802.11g 本来の性能が必要な場合は、IEEE802.11g と IEEE802.11b を別の無線 LAN ネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上あけてお使いください。
- 本製品に内蔵の無線 LAN を IEEE 802.11a（5GHz 帯）でご使用になる場合、電波法の定めにより屋外ではご利用になれません。
- 航空機内での使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

本製品には、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。したがって、本製品を輸出する場合には、同法に基づく許可が必要となる場合があります。

本製品の構成部品（プリント基板、CD/DVD ドライブ、ハードディスク、液晶ディスプレイなど）には、微量の重金属（鉛、クロム、水銀）や化学物質（アンチモン、シアン）が含有されています。

本製品は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。
また、バッテリー残量が不十分な場合、バッテリー未搭載で AC アダプタを使用している場合は、規定の耐力がないため不都合が生じることがあります。

有寿命部品と消耗品について

有寿命部品について

- ・ 本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品は、使用時間の経過に伴って摩耗、劣化などが進行し、動作が不安定になる場合がありますので、本製品をより長く安定してお使いいただくためには、一定の期間で交換が必要となります。
- ・ 有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境等により異なりますが、1 日約 8 時間のご使用で約 5 年です。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。また、長時間連続使用など、ご使用状態によっては、この目安の期間よりも早期に部品交換が必要となる場合があります。
- ・ 本製品に使用しているアルミ電解コンデンサは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
- ・ 摩耗や劣化などにより有寿命部品を交換する場合は、保証期間内であっても有料となります。なお、有寿命部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。
- ・ 本製品をより長く安定してお使いいただくために、省電力機能の使用をお勧めします。省電力機能については、『ソフトウェアガイド』(PDF) の「機能」－「省電力」をご覧ください。
また、一定時間お使いにならない場合は電源をお切りください。

<主な有寿命部品一覧>

液晶ディスプレイ、ハードディスクドライブ、CD/DVD ドライブ、
スマートカードホルダー、キーボード、マウス、AC アダプタ、ファン

消耗品について

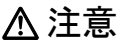
- ・ バッテリーパックや乾電池などの消耗品は、その性能／機能を維持するために適時交換が必要となります。なお、交換する場合は、保証期間の内外を問わずお客様ご自身での新品購入ならびに交換となります。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



警告表示について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

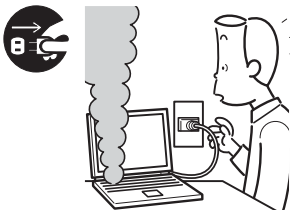
安全上のご注意

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に、大切に扱ってください。

また、本製品をお使いになるときは、マニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。

■異常や故障のとき

 警告



本製品から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、すぐにパソコン本体の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。バッ

テリパックを装着している場合は、バッテリーパックも取り外してください。

その後、異常な現象がなくなるのを確認して、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。

異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。



パソコン本体の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐにパソコン本体の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。バッテリーパックを装着している場合は、バッテリーパックも取り外してください。

その後、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

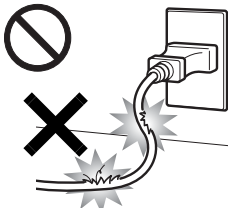


本製品を落としたり、カバーなどを破損した場合は、パソコン本体の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。バッテリーパックを装着している場合は、バッテリーパッ

クも取り外してください。

その後、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

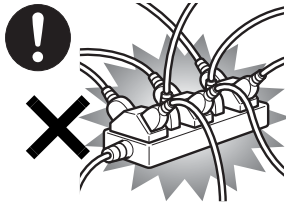
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。



ACアダプタの本体やケーブル、電源コード、電源プラグが傷ついている場合は使用しないでください。火災・感電の原因となります。

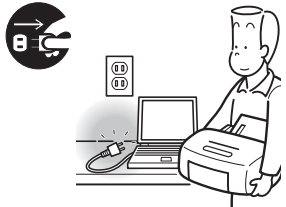
■設置されるとき

⚠ 警告



ACアダプタの電源プラグは、壁のコンセント(AC100V)に直接かつ確実にさし込んでください。また、タコ足配線をしないでください。

感電・火災の原因となります。

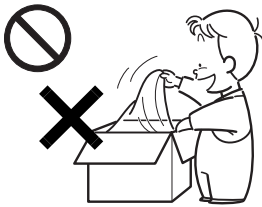


本製品を設置したり、周辺機器の取り付け／取り外しを行うときは、本製品や周辺機器の電源を切った状態で行ってください。

ACアダプタや電源コードがコンセントにつながっている

場合は、それらをコンセントから抜いてください。

感電の原因となります。



梱包に使用している袋類は、お子様の手の届くところに置かないでください。

口に入れたり、頭にかぶったりすると、窒息の原因となります。



周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となります。

⚠ 注意



振動している場所や傾いたところなどの不安定な場所に置かないでください。

本製品が落ちて、けがの原因となります。



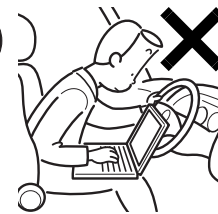
本製品を移動する場合は、必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続されたケーブルなども外してください。

作業は足元に十分注意して行ってください。

ACアダプタの電源コードが傷つき、感電・火災の原因となったり、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

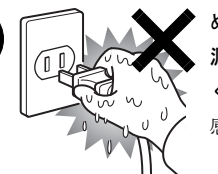
■ご使用になるとき

⚠ 警告



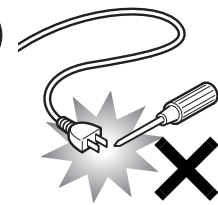
自動車などを運転中に本製品を使用しないでください。

安全走行を損ない、事故の原因となります。車を安全なところに止めてからお使いください。

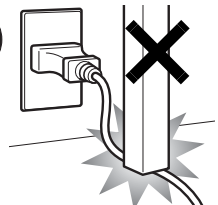


ぬれた手でACアダプタの電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



ACアダプタの電源プラグに、ドライバーなどの金属を近づけないでください。火災・感電の原因となります。



ACアダプタのケーブルは、傷つけたり、加工したり、加熱したり、重いものを乗せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

感電・火災の原因となります。



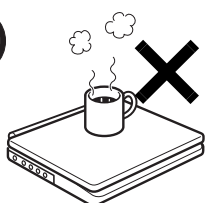
本製品を風通しの悪い場所、火気のある場所、引火性ガスの発生する場所で使用したり、置いたりしないでください。

火災の原因となります。



本製品を風呂場やシャワー室など、水のかかるおそれのある場所で使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となります。



本製品の上や周りに、花瓶・コップなど液体の入ったものを置かないでください。水などの液体が本製品の内部に入って、感電・火災の原因となります。



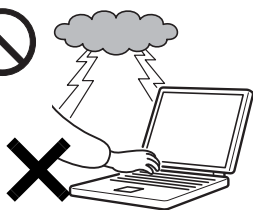
各スロットやディスクトレイなどの開口部から、本製品の内部に金属物や紙などの燃えやすいものを差し込んだり、入れたりしないでください。

感電・火災の原因となります。



取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。

誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。

落雷による感電、火災の原因となります。



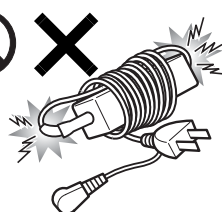
添付もしくは指定された以外のACアダプタや電源コードを本製品に使ったり、本製品に添付のACアダプタや電源コードを他の製品に使ったりしないでください。

感電・火災の原因となります。



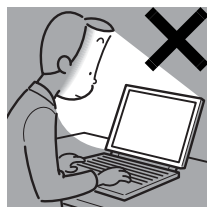
パソコン本体やACアダプタの温度が高くなる場所に長時間直接触れて使用しないでください。

低温やけどの原因になります。



ACアダプタ本体に電源コードをきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。

電源コードの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となります。

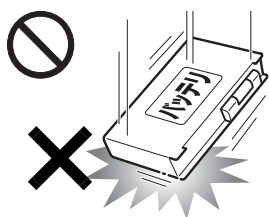


本製品をご使用になる場合には、部屋を明るくして、画面からできるだけ離れてください。

お使いになる方の体質や体調によっては、強い光の刺激を受けたり、点滅の繰

り返しによって一時的な筋肉のけいれんや意識の喪失などの症状を起こす場合がありますので、ご注意ください。過去にこのような症状を起こしたことがある場合は、事前に医師に相談してください。

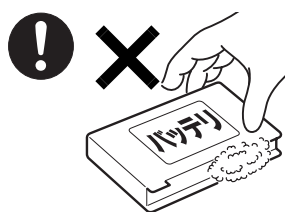
また、本製品をご使用中にこのような症状を発症した場合には、すぐに本製品の使用を中止し、医師の診断を受けてください。



バッテリーパックや乾電池（乾電池を使用する機種のみ）には以下のことをしないでください。

破裂・液漏れ・火災・けが・周囲を汚す原因となります。

- ・ショートさせる
- ・加熱したり、火の中に入れる
- ・端子部分をぬらしたり、水の中に入れる
- ・落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与える
- ・乾電池を充電する
- ・乾電池をハンダ付けする



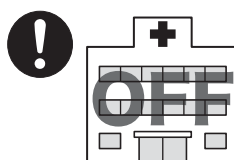
バッテリーパックや乾電池（乾電池を使用する機種のみ）が液漏れし、漏れ出た液が万一、目や口に入ったときは、こすらず水道水などの多量のきれいな水で十分に洗った後、すぐに医師

の治療を受けてください。

失明など障害の原因となります。

液が皮膚や衣類に付着したときは、ただちに水でよく洗い流してください。

皮膚に障害を起こす原因となります。



無線LANの注意

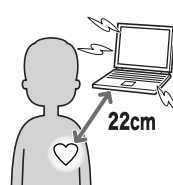
次の場所では、パソコン本体の電源を切るか、無線通信機能をオフにしてください。

無線通信機能からの電波により、誤動作による事故の原因となります。

・病院内や医療用電子機器のある場所。

特に手術室、集中治療室、CCU

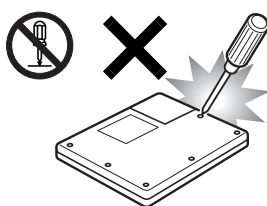
（冠動脈疾患監視病室）などには持ち込まないでください。



- ・航空機内など無線通信機能の使用を禁止されている場所
- ・自動ドア・火災報知機など自動制御機器の近く
- ・満員電車の中など付近に心臓ペースメーカーを装着している方がいる可能性がある場所

心臓ペースメーカーの装着部位からは 22cm 以上離してください。

電波によりペースメーカーの動作に影響を及ぼす原因となります。

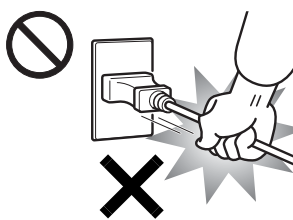


本製品をお客様ご自身で修理・分解・改造しないでください。

感電・火災の原因となります。

修理や点検などが必要な場

合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。



ACアダプタの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。

電源コードや電源プラグが傷つき、感電・火災の原因となります。

⚠ 注意



本製品を長期間使用しないときは、安全のためACアダプタの電源プラグをコンセントから抜き、パソコン本体からACアダプタを取り外してください。バッテリーパックや乾電池（乾電池を使用する機種のみ）を取り外せる場合は、バッテリーパックや乾電池も取り外してください。

火災の原因となることがあります。



本製品の上に重いものを置かないでください。故障・けがの原因となることがあります。



本製品を調理台や加湿器のそば、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となることがあります。



本製品を直射日光があたる場所、閉めきった自動車内、ストーブのような暖房器具のそばで使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となることがあります。また、破損や故障の原因となることがあります。



使用中のパソコン本体やACアダプタを布などでおおったり、包んだりしないでください。また、排気孔などの開口部をふさがないでください。

内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



排気孔付近に触れないでください。また、排気孔からの送風に長時間あたらしないでください。火傷の原因となることがあります。



PCカードなどの使用終了直後は、PCカードなどが高温になっていることがあります。

PCカードなどを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。

火傷の原因となることがあります。



本製品をお使いになる場合は、次のことに注意し、長時間使い続けるときは1時間に10～15分の休憩時間や休憩時間の間の小休止を取るようになしてください。

本製品を長時間使い続けると、目の疲れや首・肩・腰の痛みなどを感じる原因となることがあります。画面を長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」等の目の傷害の原因となることがあります。

- ・画面の位置や角度、明るさなどを見やすいように調節する。
- ・なるべく画面を下向きに見るように調整し、意識的にまばたきをする。場合によっては目薬をさす。
- ・背もたれのあるいすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
- ・いすの高さを、足の裏全体がつく高さに調節する。
- ・手首や腕、肘は机やいすのひじかけなどで支えるようにする。
- ・キーボードやマウスは、肘の角度が90度以上になるように使用する。



ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンやイヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。

突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



本装置を持ち上げたり運んだりする場合、液晶ディスプレイや液晶ディスプレイの枠部分を持って、装置を持ち上げたり運んだりしないでください。

装置の故障やけがの原因となることがあります。

持ち上げたり運んだりするときは、装置の底面あるいは装置中央の両脇を持ってください。



液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着した場合は、流水で15分以上洗浄してください。また、目に入った場合は、

流水で15分以上洗浄したあと、医師に相談してください。中毒のおそれがあります。

液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。

■お手入れについて

⚠ 警告



ACアダプタや電源プラグはコンセントからときどき抜いて、コンセントとの接続部分およびACアダプタと電源コードの接続部分などのほこりやゴミを乾いた布でよく拭き取ってください。

ほこりがたまったままの状態で使用すると感電・火災の原因になります。

■レーザーの安全性について

□CD/DVD ドライブの注意

本製品に搭載されている CD/DVD ドライブは、レーザーを使用しています。

□クラス 1 レーザー製品

CD/DVDドライブは、クラス1レーザー製品について規定している米国の保健福祉省連邦規則（DHHS 21 CFR）Subchapter Jに準拠しています。

また、クラス 1 レーザー製品の国際規格である (IEC 60825-1)、CENELEC 規格 (EN 60825-1) および、JIS 規格 (JISC6802) に準拠しています。

⚠ 警告



本製品は、レーザー光線を装置カバーで遮断する安全な構造になっていますが、次のことにご注意ください。

・光源部を見ないでください。

CD/DVDドライブのレーザー光の光源部を直接見ないでください。

また、万一の故障で装置カバーが破損してレーザー光線が装置外にもれた場合は、レーザー光線を覗きこまないでください。

レーザー光線が直接目に照射されると、視力障害の原因となります。

・お客様自身で分解したり、修理・改造しないでください。

レーザー光線が装置外にもれて目に照射されると、視力障害の原因となります。

■その他

⚠ 注意



本製品またはバッテリーパックの廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

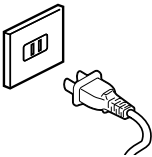
本製品はリチウム電池を、バッテリーパックはリチウムイオン電池を使用しており、一般のゴミと一緒に火中に投げられると破裂のおそれがあります。

本書の表記

■電源プラグとコンセント形状の表記について

本パソコンに添付されている電源ケーブルの電源プラグは「平行 2 極プラグ」です。本書では「電源プラグ」と表記しています。

接続先のコンセントには「平行 2 極プラグ（125V15A）用コンセント」をご利用ください。通常は、ご家庭のコンセントをご利用になれます。本書では「コンセント」と表記しています。



■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

- 例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど
- また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。
- 例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

- diskcopy a: a:
 ↑ ↑
- ・↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
 - また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
 - ・CD/DVD ドライブなどのドライブ名を、[CD/DVD ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。
- 例：[CD/DVD ドライブ]:¥setup.exe

■連続する操作の表記

- 本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。
- 例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
- ↓
- 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■BIOS セットアップの表記

- 本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」（コロン）の後に記述する場合があります。
- 例：「メイン」メニューの「言語（Language）」の項目を「日本語（JP）」に設定します。
- ↓
- 「メイン」-「言語（Language）」：日本語（JP）

■画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。
なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記		
FMV-BIBLO LOOX P70S	本パソコン／パソコン本体		
Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition 2005	Windows XP Tablet PC Edition 2005	Windows XP	Windows
Norton Internet Security™ 2006	Norton Internet Security		

■お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは 2006 年 2 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→「お問い合わせ先について」）。

警告ラベル／注意ラベル

本製品には警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。
警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

ユーザー登録について

本製品のユーザー登録については、『サポート&サービスのご案内』をご覧ください。

商標および著作権について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2006
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

1. 必ずお読みください

疲れにくい使い方

パソコン作業を続けていると、目が疲れ、首や肩が痛くなり、腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いの際は疲労に注意し、適切な環境で作業してください。

- ブラインドやカーテンで、外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしないようにする。
- 目は画面から 40cm 以上離し、画面の高さは水平より下になるようにする。
- 作業中は、1 時間に 10 分～ 15 分程度の休憩をとる。
- 肘かけや背もたれのついた椅子を使用し、座面の高さを調節する。
- パソコンの周りや足元には、十分なスペースを確保する。

パソコンをお使いになるときの姿勢や環境について、さらに詳しい説明が『ハードウェアガイド』(PDF) の「ハードウェア」－「パソコンの疲れにくい使い方」に記載されています。あわせてご覧ください。

POINT

- ▶ 富士通では、独立行政法人産業医学総合研究所の研究に協力し、その成果が「パソコン利用のアクション・チェックポイント」としてまとめられています。詳しくは、富士通ホームページ (<http://design.fujitsu.com/jp/universal/ergo/vdt/>) の解説をご覧ください。

使用上のお願い

使用および設置に適した場所

- 机の上など平らで安定した場所
- パソコンの周辺に、操作に十分なスペースが取れる場所
- パソコン本体の周囲に 10cm 以上のすき間をあげられる場所
- コンセントから直接電源をとれる場所
- インターネットに接続するときは、接続ケーブルが届く場所

使用および設置に適さない場所

- 極端に高温または低温になる場所
- 結露する場所
- 直射日光の当たる場所
- 衝撃や振動の加わる場所

- 磁石や磁気ブレスレットなど磁気を発生するものの近く
- ほこりの多い場所
- 水など液体のかかる場所
- 湿度の高い場所
- 安定の悪い場所
- パソコン本体が傾いた状態になる場所
- 発熱器具の近くや、腐食性のガスなどが発生する場所
- 周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所

POINT

- ▶ 本製品の使用環境は、温度 5～35℃／湿度 20～80%RH（動作時）、温度 -10～60℃／湿度 20～80%RH（非動作時）です。
- ▶ 結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。温度の低い場所（クーラーの効いた場所、寒い屋外など）から、温度の高い場所（暖かい室内、炎天下の屋外など）へ移動した時に起こります。結露が発生すると故障の原因となりますので、ご注意ください。
- ▶ 本製品のそばで喫煙をすると、タバコのヤニや煙がパソコン内部に入り、CPU ファンなどの機能を低下させる可能性がありますので、ご注意ください。

パソコン本体取り扱い上の注意

- 衝撃や振動を与えないでください。
- 本製品の操作に必要な力を超えて押したり、本製品に必要以上の力を加えたりしないでください。誤動作の原因となることがあります。
- 分解しないでください。
- 電源を入れたまま（スタンバイ中を含む）の状態を持ち運ばないでください。
- 排気孔はふさがらないでください。パソコン内部に熱がこもり、故障の原因となります。
- 排気孔の近くに物を置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物が熱くなることがあります。
- 排気孔からは熱風が出ています。排気孔付近には手を触れないでください。
- パソコンをお使いになると熱く感じるがありますが、これは故障ではありません。
- パソコン本体内部からは、パソコン本体内部の熱を外に逃がすためのファンの音や、ハードディスクドライブがデータを書き込む音、ディスクが回転する音などが聞こえることがあります。これらは故障ではありません。
- 本パソコンは、屋外、特に太陽光下で長時間使用しないでください。画面が見にくくなる場合があります。その場合は、太陽光が直接あたらない環境でお使いください。通常の状態に戻ります。これは故障ではありません。
- 磁石や磁気ブレスレットなど、磁気の発生するものをパソ

コン本体や画面に近付けないでください。画面が表示されなくなるなどの故障の原因となったり、保存しているデータが消えてしまうおそれがあります。

- ひざの上など直接肌に触れた状態では、長時間使用しないでください。使用中、本パソコンの底面が熱くなり、低温やけどを起こす可能性があります。
- 使用するアプリケーションによっては、パームレスト部（手をのせる部分）が多少熱く感じられることがあります。長時間使用する場合には低温やけどを起こす可能性がありますので、ご注意ください。
- 周辺機器は、弊社純正品をお使いください。
- パソコン本体には静電気に弱い部品が使用されていますので、静電気の発生しやすい場所では使用しないでください。また、使用する前には金属質のものに触れて、静電気を逃がしてください。
- 液晶ディスプレイは次のような点に注意して取り扱ってください。
 - ・ 液晶ディスプレイを開いたり閉じたりするときは、ゆっくりと衝撃を与えないようにしてください。
 - ・ 液晶ディスプレイを開くときは、無理に大きく開けないでください。
 - ・ 液晶ディスプレイをたたいたり強く押したりしないでください。
- 液晶ディスプレイを開いたまま、パソコン本体を裏返して置かないでください。
- パソコン本体を立てたり傾けて置かないでください。パソコン本体が倒れて、故障の原因となることがあります。
- 無線 LAN 機器が発信する電波は、携帯電話の電波と同じように電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では、無線LAN機能を停止してください。病院内、電車内、航空機内など／引火性ガスの発生する場所／自動ドアや火災報知器の近く／その他、使用規制のある場所など

放熱について

- パソコン本体および AC アダプタは堅い机の上などに置くようにしてください。ふとんの上など熱がこもりやすい場所に置くと、パソコンやACアダプタ表面が高温になることがあります。
- 電源が入っているときは、キーボードの上に書類などのおおいかぶさる物を置かないでください。パソコン本体の放熱が妨げられ、故障の原因になります。
- ほこりの多い環境では使用しないでください。ファンにほこりが詰まり、放熱が妨げられ、故障の原因となる場合があります。
- パソコン本体下面の吸気孔の表面にほこりがたまっている場合には取り除いてください。

- 電源が入っているときに液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイしない設定にした場合は、パソコンの液晶ディスプレイを閉じないでください。パソコン本体の放熱が妨げられ、故障の原因となります（ご購入時の設定では、電源が入っているときに閉じてもかまいません）。

落雷のおそれがあるときの注意

落雷の可能性がある場合は、パソコンの電源を切るだけでなく、すべてのケーブル類を抜いておくことをお勧めします。また、雷が鳴り出したら、パソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。

安全のため、避雷器の設置をお勧めします。

落雷には、直撃雷と誘導雷の2種類ありますが、パソコンの故障は主に誘導雷によって起こります。雷により周囲に強力な電磁場ができると発生し、電線や電話線などから侵入するのが誘導雷です。パソコンの場合、電源ケーブル、外部機器との接続ケーブル、電話線（モジュラーケーブル）、LANケーブルなどからの誘導雷の侵入が考えられます。誘導雷を防ぐにはケーブル類を抜くなどの対策が必要です。

直撃雷は避雷針によって雷を誘導して対象物を保護できますが、避雷器の許容値を超えた非常に大きな雷を受けた場合には、避雷器を用いても本製品を保護できないことがありますので、ご了承ください。

場合によっては、パソコン本体だけでなく、周辺機器などが故障することもあります。落雷によるパソコン本体の故障は、保証期間内でも有償修理となります。故障の状況によっては、修理費用が高額になることもあるので、ご注意ください。

パソコンを持ち運ぶときは

- 電源が入った状態で持ち運ばないでください。また、電源を切ってから動かす場合も約5秒ほど待ってから動かしてください。衝撃によりハードディスクドライブが故障する原因となります。
- パソコン本体に SD メモリーカードやコンパクトフラッシュカードをセットしている場合は、必ずSDメモリーカードやコンパクトフラッシュカードを取り外してください。SD メモリーカードやコンパクトフラッシュカードを取り付けたまま持ち運ぶと、パソコンや SD メモリーカードやコンパクトフラッシュカードを破損するおそれがあります。
- パソコン本体を持ち上げたり移動させたりするときは、両手でつかってください。
- パソコンをかばんの中などに入れて携帯する場合は、タブレットモードではなく、液晶ディスプレイを内側に閉じた状態にしてください（→ P.16）。タブレットモードのまま持ち運ぶと、液晶ディスプレイの

表面に傷が付くおそれがあります。

- パソコンをかばんの中などに入れて携帯する場合は、パソコン本体背面を下側に、ラッチを上側にして、かばんに入れてください。
- ワイヤレススイッチを切り替えてしまうおそれがありますので、かばんの中などにいれて携帯する場合はご注意ください。
- パソコン本体や AC アダプタを運ぶ場合は、ぶつけたり落としたりしないでください。かばんなどに入れて衝撃や振動から保護してください。

液晶ディスプレイのお手入れ

- 液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。
液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 液晶部分を拭くときは、必ずから拭きをしてください。
水や中性洗剤を使うと、液晶部分を傷めるおそれがあります。
- 化学ぞうきんや市販クリーナーは以下の成分を含んだものがあり、画面の表面コーティングを傷つける場合がありますので、ご使用を避けてください。
 - ・ アルカリ性成分を含んだもの
 - ・ 界面活性剤を含んだもの
 - ・ アルコール成分を含んだもの
 - ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・ 研磨剤を含むもの

パスワードの取り扱いについて

- BIOS のパスワードや Windows のパスワードを設定するときは、設定したパスワードを忘れないよう注意してください。パスワードを忘れると、パソコンが使えなくなり修理が必要となります。

液晶ディスプレイの回転について

本パソコンは、次の 2 つの使い方があります。

- 通常のノート型パソコンとして、キーボードとスティックポイントで操作する（通常の状態）
- 液晶ディスプレイを 180° 回転させて外側に折りたたみ、付属のペンで操作する（タブレットモード）

通常の状態、またはタブレットモードの切り替えは、次の手順に従って操作してください。

重要

- ▶ 液晶ディスプレイを回転させるときは、パソコン本体を机などの安定した平らな場所に置いてください。

1 液晶ディスプレイを開きます。

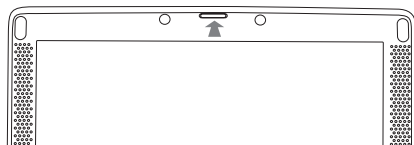
液晶ディスプレイに手を添えて持ち上げます。

POINT

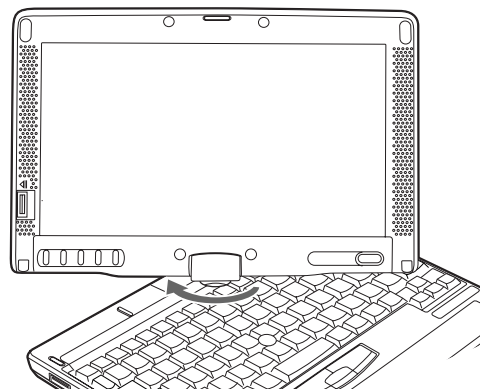
- ▶ 液晶ディスプレイは 90° の角度に開いてください。それ以外の角度では、パソコン本体を傷つける可能性があります。

2 液晶ディスプレイを手で支えながら、ラッチをパソコン本体の上面側へ押します。

ラッチがパソコン本体上面側へ押し出されます。



3 液晶ディスプレイの両側を持ち、矢印の方向に 180° 回転させます。



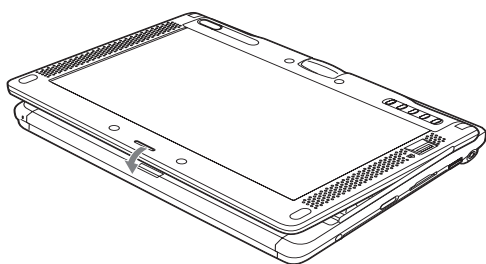
重要

- ▶ 液晶ディスプレイを 180° 以上、または逆方向に回転することはできません。180° 以上、または逆方向に回転させようと無理な力を加えないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。

POINT

- ▶ 画面を回転させるときは、AC アダプタケーブル、LAN ケーブル、CRT ケーブル、モデムケーブルが絡まないようにして回転させてください。
- ▶ タブレットモードから通常の状態へ戻すには手順 2、3 で逆方向に回転させてください。

4 液晶ディスプレイを閉じます。



重要

- ▶ タブレットモードで使用する場合、次の点にご注意ください。
 - ・手に持って使用する場合、AC アダプタを取り外してください。
 - ・手に持って使用する場合、通風孔や排気孔をふさがないようにしてください。パソコン内部に熱がこもり、故障の原因となります。
 - ・液晶ディスプレイがしっかり閉じた状態でお使いください。

POINT

- ▶ 通常の状態からタブレットモードや、タブレットモードから通常の状態にすると画面の表示の向きが自動的に切り替わるように設定されています。詳しくは「富士通タブレットコントロール」のヘルプをご覧ください。

電源を入れる

注意事項

- ご購入後、初めて電源を入れる場合は、周辺機器の取り付けなどは行わないでください。
- 電源を入れてから、持ち運んだり、衝撃や振動を与えないでください。故障の原因となります。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。再度電源を入れる場合は、10 秒以上待ってから電源を入れてください。
- パソコンを長時間お使いになる場合は、バッテリー切れによるデータ消失などを防ぐため、必ず AC アダプタを取り付けてください。
- AC アダプタなど磁界を発生する機器と FDD ユニットの離して使用してください。
- 電源を入れても画面に何も表示されないときは、次のことを確認してください。
 - ・電源ランプ (⏻) を確認してください。点灯している場合は、キーボードかポインティングデバイスに触れてください。また、【Fn】+【F7】キーを押して、明るさを

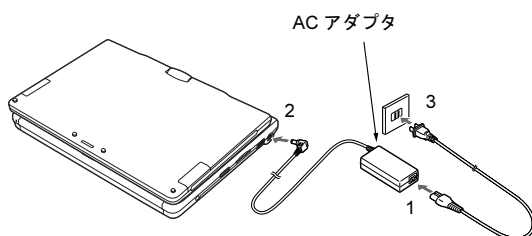
調整してください。点滅している場合は、電源ボタンを押して動作状態にしてください。消灯している場合は、電源を入れてください。

- ・バッテリー運用している場合は、状態表示 LED のバッテリー残量ランプを確認してください。本パソコンご購入時やバッテリーが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してください。

電源の入れ方

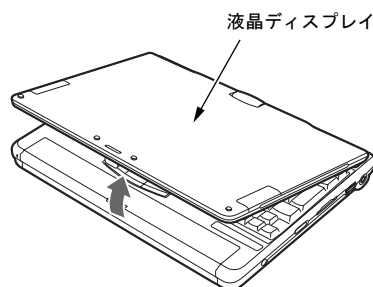
1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタに AC ケーブルを接続し (1)、パソコン本体の DC-IN コネクタに接続します (2)。その後、プラグをコンセントに接続します (3)。



2 液晶ディスプレイを開きます。

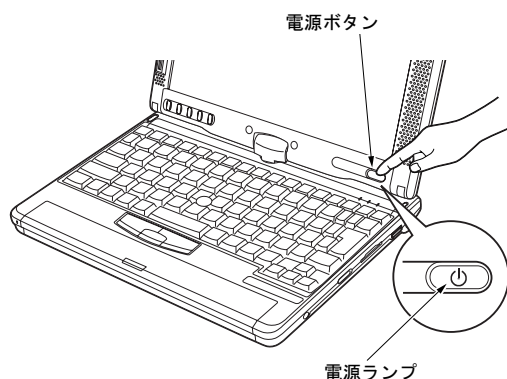
液晶ディスプレイに手を添えて持ち上げます。



3 電源ボタンを押します。

パソコン本体に電源が入り、自己診断 (POST) が始まります。また、電源ランプ (⏻) が点灯します。

ご購入後、初めて電源を入れると、Windows のセットアップ画面が表示されます。その場合は、「セットアップ」(→ P.18) をご覧になり、操作を続けてください。



重要

- ▶ 次のように設定している場合は、電源が入っているときに液晶ディスプレイを閉じないでください。キーボードからの放熱効果が失われ、本パソコンが故障する原因となることがあります。
 - ・「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブの「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「何もしない」に設定している場合

POINT

- ▶ POST とは、Power On Self Test（パワーオンセルフテスト）の略で、パソコン内部に異常がないか調べる自己診断です。本パソコンの電源が入ると自動的に行われ、自己診断終了後に OS が起動します。
- ▶ 自己診断（POST）中に電源を切ると、自己診断が異常終了したと診断されます。本パソコンでは、自己診断の異常終了回数をカウントしており、3 回続いた場合、4 回目の起動時にエラーメッセージを表示します。自己診断（POST）中は、不用意に電源を切らないでください。

セットアップ

初めて電源を入れた後に行う Windows の初期設定（Windows セットアップ）について説明します。必ず、本書の手順に従って操作してください。

次の「注意事項」をよくお読みになり、電源を入れて Windows セットアップを始めます。

注意事項

- Windows セットアップを行う前は、次の点にご注意ください。
 - ・ 周辺機器を取り付けしないでください。
 - ・ LAN ケーブルを接続しないでください。
- Windows セットアップが正常に行われなかったり、エラーメッセージが表示される場合があります。
上記の項目は、セットアップを行い、「必ず実行してください」を実行してから、行うようにしてください。
- セットアップ中は、画面上にソフトキーボードが表示されています。操作に応じてソフトキーボードの位置を移動してください。
- Windows セットアップの各ウィンドウが完全に表示されないうちにキーを操作すると、Windows セットアップが完全に行われない場合があります。ウィンドウが完全に表示されてから、キーまたはポインティングデバイスで操作してください。
- セットアップ中は、不用意に電源を切らないでください。

- Windows セットアップが進められなくなったときは、「セットアップで困ったときは」（→ P.20）をご覧ください。

Windows XP セットアップ

- 1 AC アダプタを接続し、本パソコンの電源を入れます（→ P.17）。
しばらくすると、「Microsoft Windows へようこそ」が表示されます。
- 2 「次へ」をクリックします。
「使用許諾契約」が表示されます。
「使用許諾契約書」は、本パソコンにあらかじめインストールされている Windows を使用するうえでの契約を記述したものです。
- 3 「使用許諾契約書」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「コンピュータを保護してください」と表示されます。

POINT

- ▶ 「同意しません」を選択した場合は、「次へ」をクリックした後、メッセージに従って操作してください。
- 4 「自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「コンピュータに名前を付けてください」と表示されます。
 - 5 「このコンピュータの名前」と「コンピュータの説明」を入力し、「次へ」をクリックします。
「管理者パスワードを設定してください」と表示されます。

POINT

- ▶ 「コンピュータの説明」は省略できます。
また、コンピュータの名前や説明は、セットアップ終了後にあらためて設定することもできます。
- 6 「管理者パスワード」と「パスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。
「このコンピュータをドメインに参加させますか？」と表示されます。

POINT

- ▶ 管理者パスワードは後から設定できます。詳しくは、Windows のセットアップがすべて完了した後、Windows のヘルプを表示して「パスワード」で検索し、「ユーザーのパスワードを変更する」をご覧ください。
- ▶ パスワードでは大文字／小文字が区別されます。
- ▶ 「Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか?」と表示された場合は、手順9へ進んでください。
- ▶ 「設定が完了しました」と表示された場合は、手順 10 へ進んでください。

- 7 「いいえ ...」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「インターネット接続を確認しています」と表示されます。しばらくすると、「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されます。

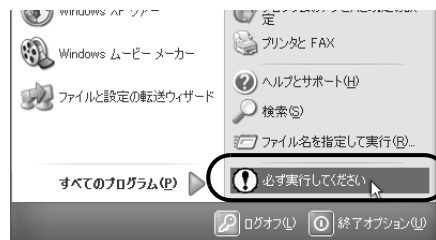
POINT

- ▶ 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか?」と表示された場合は、手順 9 へ進んでください。
- 8 「省略」をクリックします。
「Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか?」と表示されます。
- 9 「いいえ、今回はユーザー登録しません」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「設定が完了しました」と表示されます。
- 10 「完了」をクリックします。
Windows が再起動します。
- 11 手順 6 でパスワードを入力した場合は、その入力したパスワードを入力し、「→」をクリックします。

POINT

- ▶ 画面下の通知領域に警告が表示される場合があります。このような場合は、この後手順どおりに進み、「必ず実行してください」を実行後、お持ちのウイルス対策ソフトをインストールし、ウイルス対策を最新の状態にしてください。

- 12 「スタート」メニューの「必ず実行してください」をクリックします。
「このパソコンに最適な設定を行います」ウィンドウが表示されます。



重要

- ▶ 「必ず実行してください」を行わないと、セットアップの最終設定が行われません。必ず手順どおりに実行してください。
- 13 「実行する」をクリックします。
しばらくお待ちください。
- 14 保証開始日を示した画面が表示されます。
この保証開始日を保証書に書き写してください。保証書に保証開始日が記入されていないと、保証期間内であっても有償での修理となります（なお、保証開始日は本製品の電源を最初に入れた日になります。保証書自体は大切に保管ください）。
保証書への書き写しが終わったら次の手順に進みます。
- 15 「閉じる」をクリックします。
- 16 次の手順に進んで良ければ「いいえ」をクリックします。
もう一度保証期間を確認したいときは「はい」をクリックしてください。
- 17 「OK」をクリックします。
Windows が再起動します。
- 18 手順 6 でパスワードを入力した場合は、その入力したパスワードを入力し、「→」をクリックします。
これで、Windows セットアップが完了しました。
この後は、「セットアップ後」（→ P.19）をご覧ください。必要な操作を行ってください。

セットアップ後

セットアップが終わったら、パソコンを使い始める前に、次の操作を行ってください。

■セキュリティ対策

ウイルス対策や不正アクセスに関する対策など、お使いのパソコンについてのセキュリティ対策は、お客様自身が責任をもって行ってください。

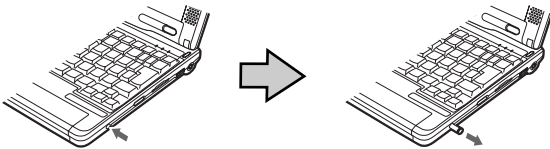
このパソコンには、「Norton Internet Security」というウイルス対策ソフトが用意されています。詳しくは、『ソフトウェア』（PDF）の「セキュリティ」をご覧ください。

■ペンの調整

次の手順に従って、ペンでタッチ位置を調整してください。
操作はペンで行います。

POINT

- ▶ ペンは、本パソコンに収納されています。ペンは、ペンの上部を押すと飛び出します。ペンを使わないときは、ここに差し込んで収納してください。



- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「プリンタとその他のハードウェア」をタップします。
「プリンタとその他のハードウェア」ウィンドウが表示されます。
- 3 「タブレットとペンの設定」をタップします。
「タブレットとペンの設定」ウィンドウが表示されます。
- 4 「設定」タブをタップし、「調整」をタップします。
画面に調整ポイント（十字型）が表示されます。
- 5 画面の「+」マークの交点を、ペンでタップします。
「+」マークが移動し、次の調整ポイントが表示されます。
- 6 手順 5 と同様に、「+」マークを順番にタップします。
合計 4ヶ所をタップします。

POINT

- ▶ 調整するときは、ペンを「+」マークの交点に正確に合わせてタップしてください。
- ▶ 横画面・縦画面の調整はそれぞれの向きに変更して行ってください。

- 7 「OK」をタップします。
「タブレットとペンの設定」ウィンドウに戻ります。
- 8 「OK」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。

セットアップで困ったときは

セットアップ中に動かなくなった、など困ったことがあったときには、次の項目をご覧ください。

□Windows セットアップが進められなくなった

- 「電源を切る」(→ P.20) をご覧になり、本パソコンの電源を一度切った後でセットアップをやり直してください。
- 途中で電源を切ると、次に電源を入れたときに再起動を繰り返したり、「システムのインストールが完全ではありません」

せん」などのメッセージが表示され、Windows が起動しなくなることがあります。この場合は、「FUJITSU」ロゴが表示されているときか、またはメッセージが表示されているときに、電源ボタンを 4 秒以上押し続けて強制的に電源を切り、リカバリ操作を行ってください。

□画面が見にくい

- 液晶ディスプレイの角度を見やすい位置に調節します。
- 次のキーを何度か押して輝度を調節します。
【Fn】+【F6】キーを押すと、表示が暗くなります。
【Fn】+【F7】キーを押すと、表示が明るくなります。

電源を切る

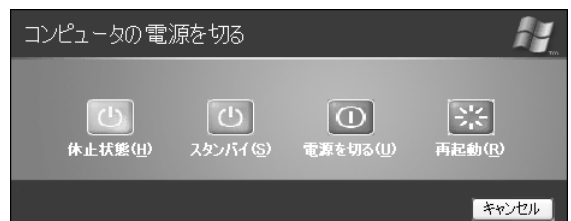
注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し、データを保存してください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。再度電源を入れる場合は、10 秒以上待ってから電源を入れてください。
- 本パソコンの電源を切る場合は、取り付けられている周辺機器から、あらかじめ CD などがある場合は取り出してください。

電源の切り方

「スタート」ボタン→「終了オプション」→「電源を切る」の順にクリックします。

OS が終了し、本パソコンの電源が切れます。また、電源ランプ (→ P.17) が消えます。



POINT

- ▶ 上記操作で電源が切れない場合、次の手順で電源を切ってください。
 1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
 2. Windows を終了します。
表示されるウィンドウによって手順が異なります。
- 「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示された場合
「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。

- 「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示された場合

1. 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されます。
2. 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。

それでも電源が切れない場合は、電源ボタンを 4 秒以上押してください。

- ▶ 通常の操作で表示される画面で、「再起動」を選択すると、本パソコンを再起動することができます。再起動とは、メモリに入っている情報をいったん消して、再びハードディスクなどから OS を読み込み直すことです。
- ▶ 通常の操作で表示される画面で、「スタンバイ」または「休止状態」を選択すると、本パソコンが省電力状態になります（→『ソフトウェアガイド』（PDF））。
- ▶ このあと、本パソコンを長期間使用しない場合は、AC アダプタやバッテリーパックを取り外してください。

2. 必要に応じてお読みください

指紋認証について

指紋認証とは

ユーザー名やパスワードの入力を省略し、指紋センサーに指をスライドさせるだけで次のようなことができます。

● Windows のログオン

Windows のユーザーアカウントにログオンパスワードを設定しておく、そのパスワードを知っている人以外はそのアカウントで Windows にログオンすることができなくなります。しかしこの場合、Windows にログオンするたびにパスワードの入力をしなければなりません。

指紋認証を使えば、あらかじめ登録した指紋を認証させるだけで Windows にログオンすることができるので、パスワードの入力を省略することができます。

● 省電力状態からの復帰

省電力状態からパソコンが復帰するときにパスワードを設定しておく、パソコンが省電力状態から復帰するたびにパスワードの入力をしなければなりません。

指紋認証を使えば、あらかじめ登録した指紋を認証させるだけで省電力状態からの復帰が完了するので、パスワードの入力を省略することができます。

● パスワードが設定されたスクリーンセーバーの解除

スクリーンセーバーを解除する時にパスワードを設定しておく、スクリーンセーバーを解除するたびにパスワードの入力をしなければなりません。

指紋認証を使えば、あらかじめ登録した指紋を認証させるだけでスクリーンセーバーを解除できるので、パスワードの入力を省略することができます。

● ID（ユーザー名）やパスワードを必要とするホームページへのログイン

セキュリティが設定されたホームページにログインするために、ID（ユーザー名）やパスワードなどのログイン情報を入力しなければならない場合があります。

指紋認証を使えば、特定のホームページに対してあらかじめログイン情報を記憶させておくことにより、指紋センサーに指をスライドさせるだけでこれらのホームページにログインすることができます。

ログイン情報を入力する状況はホームページごとに異なり、ログイン情報をホームページ内に直接入力する場合と、入力専用の画面が表示される場合があります。どちらの場合でも指紋認証によるログインを行うことができます。

Windows のログオンパスワードを作成する

指紋認証では認証の情報として、Windows にログオンするときと同じユーザー名およびパスワードを使用します。指紋を登録する前に、必ず Windows のログオンパスワードを作成してください。

重要

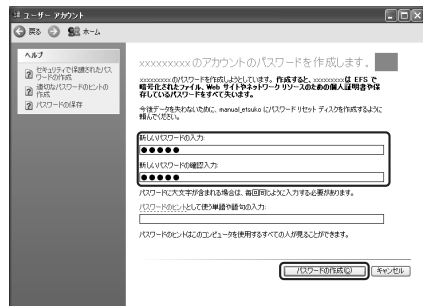
- ▶ Windows のユーザー名を変更しないでください

Windows にログオンするときのユーザー名は変更しないでください。ユーザー名を変更すると、指紋認証を使って Windows にログオンできなくなります。変更してしまった場合は、Windows のユーザー名を変更前のユーザー名に戻してください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「作業する分野を選びます」から、「ユーザーアカウント」をクリックします。
- 3 「コントロールパネルを選んで実行します」から、「ユーザーアカウント」をクリックします。
この画面が表示されない場合は、手順 4 へ進んでください。
- 4 「変更するアカウントを選びます」から、Windows にログオンするときと同じユーザー名をクリックします。
ご購入時は「Administrator」になっています。
- 5 「パスワードを作成する」をクリックします。



- 6 「新しいパスワードの入力」、「新しいパスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「パスワードの作成」をクリックします。



- 7 ウィンドウの右上にある **X** をクリックして、ウィンドウを閉じます。
- 8 「コントロールパネルを選んで実行します」から、「ユーザーアカウント」をクリックします。
- 9 「ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する」をクリックします。



- 10 「よろこそ画面を使用する」と「ユーザーの簡易切り替えを使用する」の ☐ をクリックして ☒ にし、「オプションの適用」をクリックします。



- 11 ウィンドウの右上にある **X** をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。
- 12 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「再起動」をクリックします。
パソコンが再起動します。

再起動後、Windows にログオンするときには、設定したパスワードを入力してください。

指紋を登録する

認証に必要な情報を登録します。指紋を登録する前に、「Windows のログオンパスワードを作成する」(→ P.22) をご覧になり、必ず Windows のログオンパスワードを作成しておいてください。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass 登録ウィザード」の順にクリックします。
- 2 「OmniPass に登録する」をクリックします。



- 3 Windows にログオンするときと同じパスワードを「パスワード」および「パスワードの確認」に入力し、「次へ」をクリックします。「ユーザー名」が Windows にログオンするときと同じことを確認してください。

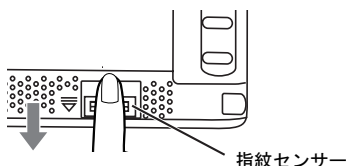


重要

- ▶ Windows のログオンパスワードを設定していない場合
Windows にログオンするとき、パスワードを使用するように設定してください。認証の情報には、Windows でログオンするときと同じユーザー名およびパスワードを使用します。Windows のログオンパスワードの作成については、「Windows のログオンパスワードを作成する」(→ P.22) をご覧ください。
- 4 認証で使用する指をイラストで選択し、「次へ」をクリックします。



- 5 指紋の読み取りが始まります。画面の表示にしたがって指紋の読み取りを行ってください。指紋が正常に読み取れた場合にはイラストが緑色に、読み取れなかった場合にはイラストが赤色に表示されます。



POINT

▶ 指紋の読み取りがうまくいかない場合

指紋センサーに指をスライドさせる方法を確認してください。スライドの方法については、「指のスライドのさせ方」(→ P.25)をご覧ください。

6 「確認は成功しました」と表示されたら、「完了」をクリックします。

確認がうまくいかなかった場合には、「戻る」をクリックし、もう一度指紋の読み取りを行ってください。

7 「少なくとも2本の指の登録が必要です。引き続き、2本目の指を登録してください。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

手順4の操作に戻り、1指目以外の指の指紋を登録してください。

8 2指目の指紋を登録したら、「完了」をクリックします。「操作が完了するまでお待ちください…」というウィンドウが表示され、登録が完了するとウィンドウが閉じます。



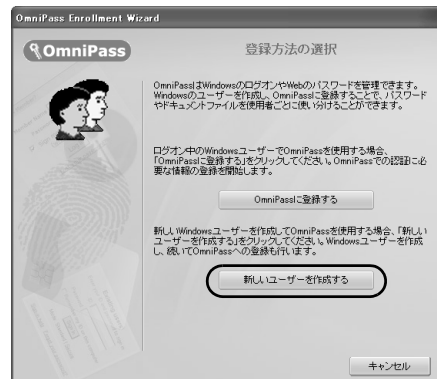
これで指紋の登録は完了です。

複数ユーザーで指紋認証を使う

複数のユーザーが指紋を登録して、指紋認証を使うことができます。Windows のログオンパスワードも同時に設定できます。

新しいユーザーを登録する場合は、コンピュータの管理者でログオンしている必要があります。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass 登録ウィザード」の順にクリックします。
- 2 「新しいユーザーを作成する」をクリックします。



- 3 新しく追加するユーザーの名前を「ユーザー名」に、ログオンパスワードを「パスワード」および「パスワードの確認」に入力したら、アカウントの種類を選んで、「次へ」をクリックします。
ここで入力したユーザー名とパスワードで、新しいユーザーが追加されます。



POINT

▶ 「アカウント」の種類について

・「コンピュータの管理者」

パソコンの設定を変更したり、新しいソフトウェアをインストールしたりできます。ソフトウェアの使用やファイルの削除などが制限されません。

・「制限付きユーザー」

パソコンの設定の変更や、ファイルの参照、システムの重要なファイルの削除が制限されます。また、ソフトウェアのインストールや一部のソフトウェアの使用が制限されます。

- 4 新しく追加したユーザー名で指紋の登録をします。「指紋を登録する」手順4(→ P.23)に戻り、指紋の登録をしてください。

指紋認証を使って Windows にログオンする

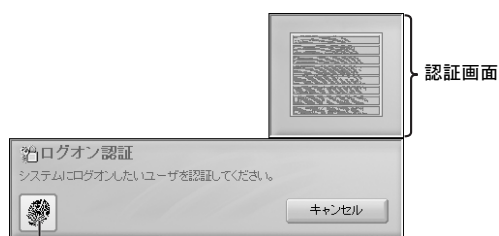
指紋認証を使うと Windows ログオンパスワードを入力する代わりに、指紋センサーに指をスライドさせるだけで Windows にログオンできるようになります。

また、複数ユーザーでパソコンを使用している場合には、ユーザー選択も省略することができます。

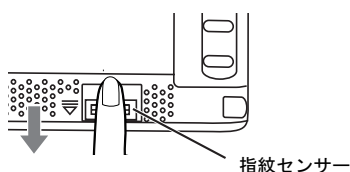
- 1 電源ボタン () を押して、Windows を起動します。
Windows が起動すると「ログオン認証」画面が表示されます。

- 2 指紋登録した指のいずれかを指紋センサーにスライドさせます。

指紋の認証に成功すると、Windows にログオンします。認証画面が表示されていない場合は、指紋のマークをクリックして、認証画面を表示させてください。



このマークをクリックすると、認証画面が表示されます。



POINT

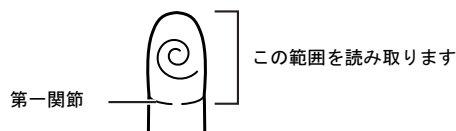
- ▶ 指紋の読み取りがうまくいかない場合
指紋センサーに指をスライドさせる方法を確認してください。スライドの方法については、「指のスライドのさせ方」(→ P.25) をご覧ください。
- ▶ 指紋認証がうまくいかない場合は Windows のログオンパスワードによる認証を行ってください
指紋認証を 3 回連続して失敗した場合には、指紋のマークに×印が付き、認証画面を閉じます。指紋のマークをクリックすると、もう一度認証画面が表示され、指紋認証ができるようになります。それでも指紋認証に失敗する場合は、Windows のログオンパスワードを使ってログオンしてください。

指のスライドのさせ方

指紋の登録や認証を行う場合は、次のように指をスライドさせてください。認証の失敗を減らすことができます。

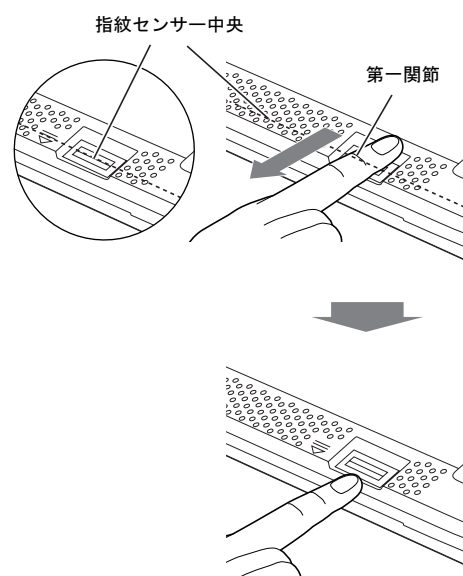
- 1 操作する指の第一関節が、指紋センサーの中央部に当たるように準備します。

第一関節より先の部分が読み取り範囲となります。



- 2 指をまっすぐ伸ばして第一関節を指紋センサーに軽く当てます。

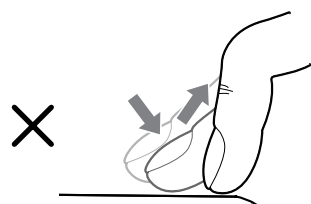
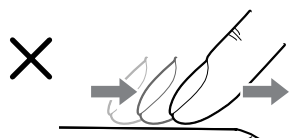
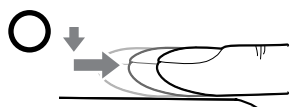
すぐに手全体を手前に引くようにして、センサー部が完全に見えるまで水平にスライドさせます。



重要

- ▶ 指を突き立てたり、引っかけるようにスライドさせないでください

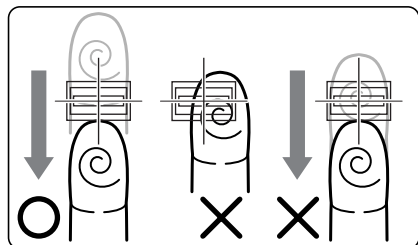
指紋センサーに指のはら（指紋の中心部）が接触していなかったり、指を引っかけるようにスライドさせると指紋の読み取りがうまくいかない場合があります。必ず、指のはら（指紋の中心部）が指紋センサーに接触するようにスライドさせてください。



- ▶ うまく認識されないときは

次の点に気を付けて操作してください。

- ・ 指の第一関節より先の部分が、指紋センサー上を通過するようにする
- ・ 指紋の渦の中心が、指紋センサーの中心を通過するようにする
- ・ 1秒程度で通過するくらいの速さで、スーッと動かす



なお、親指など、指紋の渦の中心を合わせにくい指は、うまく認識できないことがあります。その際は、中心を通過させやすい指を登録してください。

- ▶ 指紋の読み取りがうまくいかない場合

指紋センサーに指をスライドさせるときは、必ず指紋の入力画面の表示を確認し、指紋の入力が可能な状態になってから行ってください。指紋の入力画面が表示される前から指を指紋センサーに置くと、指紋の認証に失敗する場合があります。

また、指のスライドが速すぎたり遅すぎたりした場合にも、正常に認識できないことがあります。画面のメッセージに従って、スライドの速さを調節してください。

指紋センサーについての注意

- 次のような場合は、故障および破損の原因となることがあります。
 - ・ 指紋センサー表面をひっかいたり、先のとがったものでつついたりした場合
 - ・ 指紋センサー表面を爪や硬いもので強く擦り、センサー表面にキズが入った場合
 - ・ 泥などで汚れた手で指紋センサーに触れ、細かい異物などでセンサー表面にキズが入ったり、表面が汚れたりした場合
 - ・ 指紋センサーのセンサー部にシールを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりした場合
- 次のような場合は、指紋の読み取りが困難になったり、認証率が低下したりすることがあります。指紋センサー表面はときどき清掃してください。
 - ・ 指紋センサー表面がほこりや皮脂などで汚れている
 - ・ 指紋センサー表面に汗などの水分が付着している
 - ・ 指紋センサー表面が結露している
- 次のような現象が起きる場合は、指紋センサー表面の清掃を行ってください。現象が改善されることがあります。
 - ・ 「センサー表面の汚れを取り除いてください」が表示される
 - ・ 指紋の登録失敗や認証失敗が頻発する
- 指紋センサーを清掃する際には、メガネ拭きなどの乾いたやわらかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。
- 指紋センサーに指を置く前に金属に手を触れるなどして、静電気を取り除いてください。静電気が故障の原因となる場合があります。冬期など乾燥する時期は特にご注意ください。
- 長期間使用することにより、センサー周辺にゴミがたまる場合がありますが、先のとがったもので取り除かないようにしてください。

指紋認証をお使いになる場合の注意

- 本機能は指紋画像の特徴情報を認証するものです。このため、お客様によっては指紋の特徴情報が少なく、登録操作ができない場合があります。
- 指紋の登録には同一の指で3回の読み取りが必要です。異なる指で登録を行うと、認証できない場合があります。
- 指の状態が次のような場合は、指紋の登録が困難になったり、認証率（正しく指をスライドさせた際に指紋が認証される割合）が低下することがあります。なお、手を洗う、手を拭く、認証する指を変える、手荒れや乾いている場合はクリームを塗るなど、お客様の指の状態に合わせて対処することで、認証時の状況が改善されることがあります。
 - ・お風呂上がりなどで指がふやけている場合
 - ・指に汗や脂が多く、指紋の間が埋まっている場合
 - ・手が荒れたり、指に損傷（切傷、ただれなど）を負っている場合
 - ・手が極端に乾燥していたり、乾燥肌の場合
 - ・指が泥や油などで汚れている場合
 - ・太ったり、やせたりして指紋が変化した場合
 - ・磨耗して指紋が薄くなった場合
 - ・指紋登録時に比べ、指紋認証時の指の表面状態が極端に異なる場合
 - ・濡れたり、汗をかいたりしている場合
- センサー表面が濡れていたり結露していたりすると、誤作動の原因となります。柔らかい布で水分を取り除いてからご使用ください。
- 認証率はお客様の使用状況により異なります。
- 各指で指紋が異なりますので、必ず登録を行った指で認証の操作を行ってください。
- 指紋が正常に読み取れなかったときや、一定時間内に認証されなかったときは、警告メッセージが表示されます。
- 指紋認証技術は完全な本人認証・照合を保障するものではありません。当社では本製品を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

ホームページのログイン情報を登録する

セキュリティが設定されたホームページにログインするために、ID（ユーザー名）やパスワードなどのログイン情報を入力しなければならない場合があります。指紋認証を使うと、特定のホームページに対してあらかじめログイン情報を記憶させておくことにより、指紋センサーに指をスライドさせるだけでホームページにログインすることができます。次の手順でログイン情報を登録してください。

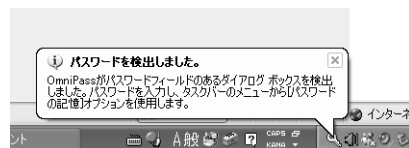
重要

- ▶ ホームページの種類により、指紋認証を使うためのログイン情報の登録ができない場合があります。

■ホームページのログイン情報を登録する

1 ログイン情報を登録したいホームページを表示します。

指紋認証を使うためのログイン情報の登録ができるホームページでは、右下の画面通知領域に次のようなポップアップが表示されます。



2 ログイン情報を入力します。

- ・ホームページに直接入力するページの場合「ログイン」などのボタンは押さないでください。

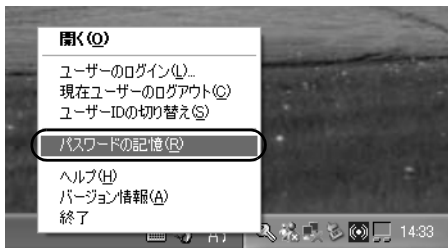


- ・ログイン情報の入力専用画面が表示される場合「OK」ボタンは押さないでください。



- 3 画面右下の通知領域にあるOmniPassアイコンを右クリックし、表示されるメニューから「パスワードの記憶」をクリックします。

マウスポインタがに変わります。



- 4 に変わったマウスポインタで、手順2で入力したログイン情報の領域をクリックします。

「OmniPass - 覚えやすい名前」ウィンドウが表示されます。

- ・ホームページに直接入力するページの場合
ユーザー名やパスワードを入力した領域をクリックします。



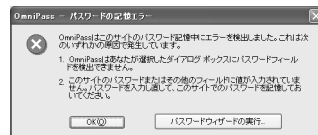
- ・ログイン情報の入力専用画面が表示される場合
入力画面をクリックします。



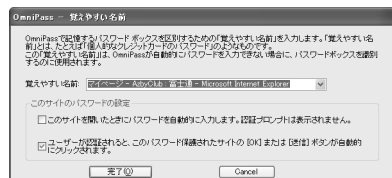
- ・「OmniPass- パスワードの記憶エラー」ウィンドウが表示された場合

- ・「OK」をクリックした場合、手順2（→P.27）からやり直してください。

- ・「パスワードウィザードの実行」をクリックした場合、「パスワードウィザードでログイン情報を登録する」の手順5（→P.29）からご覧ください。



- 5 「OmniPass - 覚えやすい名前」ウィンドウで、ログイン情報の名前を入力します。



- 6 「完了」をクリックします。

ログイン情報の登録が完了しました。ここで設定したホームページは、ユーザー名やパスワードを入力しなくても、登録済みの指紋を認証させるだけでログインできます。

■パスワードウィザードでログイン情報を登録する
ここではパスワードウィザードでの登録方法について説明をします。

パスワードウィザードはログイン情報の入力専用画面が表示された場合に使うことができます。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass コントロールセンター」の順にクリックします。

「OmniPass コントロールセンター」ウィンドウが表示されます。

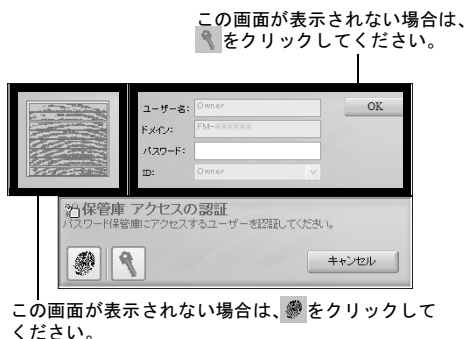
- 2 「保管庫の管理」をクリックします。

「保管庫アクセスの認証」ウィンドウが表示されます。



3 指紋登録した指のいずれかを指紋センサーにスライドさせます。

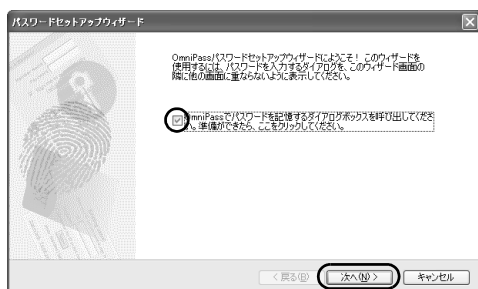
指紋の認証が成功すると、「ID の管理」ウィンドウが表示されます。



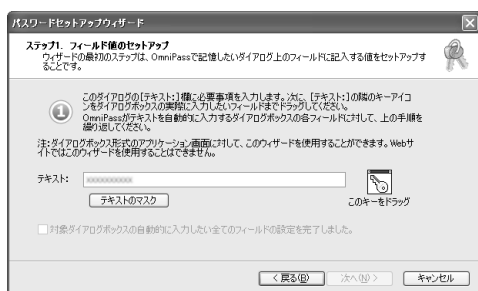
4 ID を選択し、「パスワードウィザード」をクリックします。

「パスワードセットアップウィザード」が表示されます。

5 「OmniPass でパスワードを記憶する…」の左の ☐ を ☒ にして、「次へ」をクリックします。



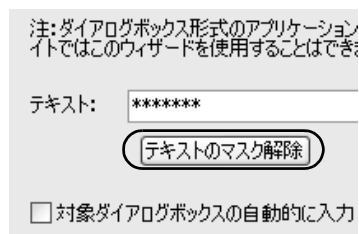
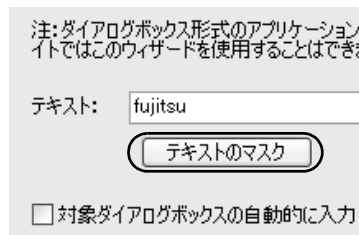
6 「テキスト」にログインさせたい ID (ユーザー名) を入力します。



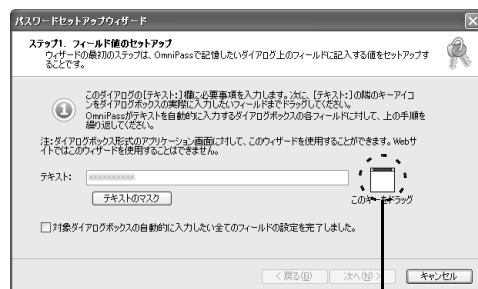
POINT

▶ 「テキストのマスク」をクリックすると入力中の文字が「*****」に変わり、ID (ユーザー名) やパスワードを第三者に見られることなく入力することができます。

「テキストのマスク解除」をクリックすると「*****」が元に戻り、入力中の文字を確認できます。



7 マウスポインタを に合わせ、左ボタンをクリックしたまま (押したまま) ログイン情報の入力専用画面の入力箇所まで移動し、青枠が表示されたら左ボタンを離します。

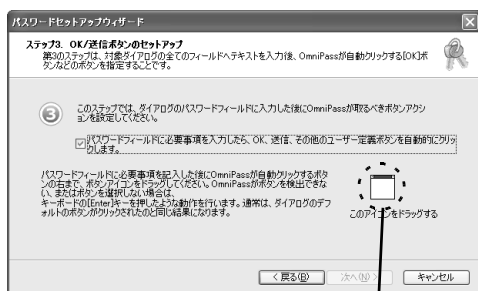


- 8 手順6に戻り、ID（ユーザー名）と同様にパスワードの登録をします。
- 9 「パスワードセットアップウィザード」ウィンドウの、「対象ダイアログボックスの…」の左の ☐ を ☒ にして、「次へ」をクリックします。
- 10 「次へ」をクリックします。

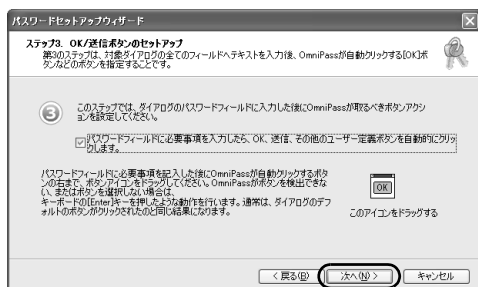
POINT

▶ 「ダイアログが表示されたときにユーザー認証なしで…」の左の ☒ を ☐ にすると、指紋認証をすることなくパスワードを登録したホームページにログインします。

- 11 マウスポインタを **OK** に合わせ、左ボタンをクリックしたまま（押したまま）「パスワード入力」ウィンドウの「OK」ボタンや「ログイン」ボタンまで移動し、青枠が表示されたら左ボタンを離します。

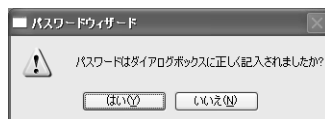


- 12 「次へ」をクリックします。

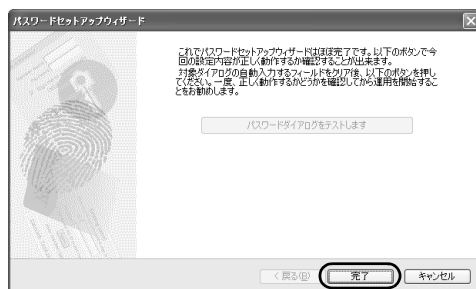


- 13 「パスワードダイアログをテストします」をクリックします。

- 14 次のメッセージウィンドウが表示されます。正しければ「はい」をクリックします。
- もし正しくなければ「いいえ」をクリックし、もう一度手順6からやり直します。



- 15 「完了」をクリックします。



ログイン情報が登録されました。

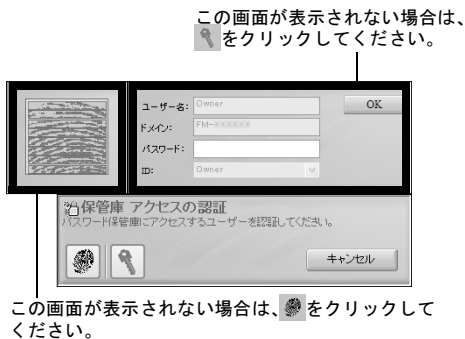
■ホームページのログイン情報を管理する

指紋認証を使ってホームページにログインするための情報は、次の画面で管理することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass コントロールセンター」の順にクリックします。
 - 2 「保管庫の管理」をクリックします。
- 「保管庫アクセスの認証」ウィンドウが表示されます。



- 3 指紋登録した指のいずれかを指紋センサーにスライドさせます。
- 指紋の認証が成功すると、「ID の管理」ウィンドウが表示されます。



- 4 「パスワードの管理」をクリックします。
- 「パスワードの管理」ウィンドウが表示されます。
- 5 「パスワードの必要なダイアログ」にログイン情報が表示されます。
- ログイン情報を変更するには、ログイン情報の再登録が必要となります。変更したいログイン情報名を選択して「ページの削除」をクリックし、ログイン情報を削除した後に再登録してください。

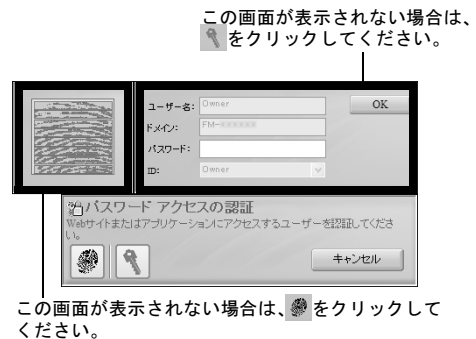


指紋認証でホームページにログインする

指紋認証を使うと、指紋センサーに指をスライドさせるだけで、セキュリティの設定がされているホームページにログインすることができます。

- 1 ID（ユーザー名）やパスワードなどのログイン情報が登録されているホームページを表示させます。
- 「パスワード アクセス認証」ウィンドウが表示されます。

- 2 指紋登録した指のいずれかを指紋センサーにスライドさせます。
- 指紋の認証が成功すると、自動的にホームページにログインします。



登録情報を変更する

ここでは、指紋認証を使うために登録した情報を変更する方法について説明します。

重要

- 指紋認証の登録が完了した後は、Windows にログオンするときに必要となるユーザー名、および指紋認証の登録情報に設定したユーザー名は変更しないでください。

●登録情報

登録情報には、ユーザー名、パスワード、指紋、ホームページのログイン情報があります。登録情報を変更する場合には、ユーザー名やパスワードなどのすべての登録情報を削除し、再登録を行います。

ただし、指紋を新しく追加したり、ホームページのログイン情報を追加／削除したりする場合には、指紋認証の登録情報を削除する必要はありません。

●ユーザー名

ユーザー名は変更しないでください。

●パスワード

Windows にログオンするときのパスワードを変更した場合は、指紋認証の登録情報に設定されているパスワードも、変更後の Windows のパスワードと同じものに変更する必要があります。指紋認証の登録情報に設定されているパスワードを変更する場合は、指紋認証の登録情報をすべて削除し、再登録を行います。

●指紋

指紋の登録数を追加することができます。また、すでに登録済みの指紋を登録しなおすこともできます。ただし、登録済みの指紋を削除するには、指紋認証の登録情報をすべて削除し、再登録を行う必要があります。

● ホームページのログイン情報

ホームページのログイン情報を変更する場合は、登録済みのログイン情報を削除し、再登録が必要になります。この場合は指紋認証の登録情報を削除する必要はありません。

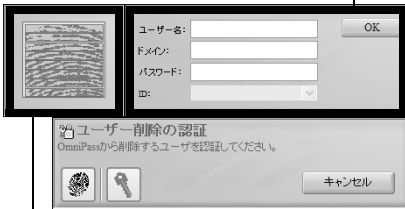
■ 指紋認証の登録情報を削除する

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass コントロールセンター」の順にクリックします。

「OmniPass コントロールセンター」ウィンドウが表示されます。

- 2 「ユーザーの管理」タブをクリックします。
- 3 「OmniPass からユーザーを削除」をクリックします。
「ログインユーザーの認証」ウィンドウが表示されます。
- 4 指紋登録した指のいずれかを指紋センサーにスライドさせます。
指紋の認証が成功すると、「ユーザー削除確認」ウィンドウが表示されます。

この画面が表示されない場合は、をクリックしてください。



この画面が表示されない場合は、をクリックしてください。

- 5 「OK」をクリックします。

「ユーザーは正常に削除されました」というメッセージが表示されます。

- 6 「OK」をクリックします。

指紋認証の登録情報が削除されました。「指紋認証の情報を登録する」をご覧になり、指紋認証情報の再登録を行ってください。

■ 指紋認証の情報を登録する

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass コントロールセンター」の順にクリックします。

「OmniPass コントロールセンター」ウィンドウが表示されます。

- 2 「ユーザーの管理」タブをクリックします。
- 3 「新規ユーザーを OmniPass に追加」をクリックします。
「登録方法の選択」ウィンドウが表示されます。

- 4 「OmniPass に登録する」をクリックします。



- 5 Windows にログオンするときと同じパスワードを「パスワード」および「パスワードの確認」に入力し、「次へ」をクリックします。

「指の選択」ウィンドウが表示されます。

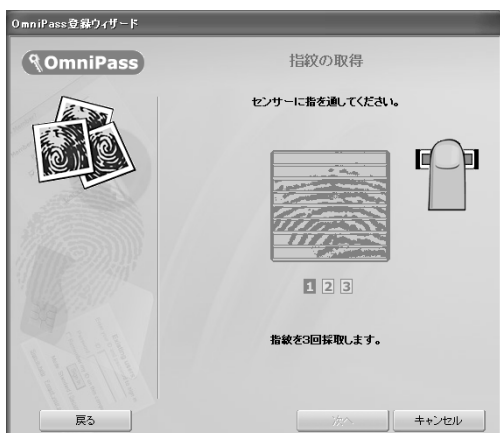


- 6 指紋を登録する指を選択し、「次へ」をクリックします。
「指紋の取得」ウィンドウが表示されます。



- 7 指紋センサーに指をスライドさせ、指紋の採取と確認を行います。「指紋の確認」が完了したら「完了」をクリックします。

「指紋の採取」は3回行います。「指紋の採取」が3回成功した後に「指紋の確認」のためにもう一度指紋センサーに指をスライドさせます。



- 8 「少なくとも2本の指の登録が必要です。引き続き、2本目の指を登録してください。」というメッセージが表示されたら「OK」をクリックします。



「指の選択」ウィンドウが表示されます。

- 9 もう一度手順6から手順7までの操作を行い、もう1本の指の指紋を登録します。
- 10 「完了」をクリックします。
- 「操作が完了するまでお待ちください…」というウィンドウが表示され、登録が完了するとウィンドウが閉じます。

以上で指紋認証情報の登録が完了しました。

登録情報の保存／読み込み

ユーザー名やパスワード、指紋やホームページのログイン情報など、一度登録した情報を、まとめて保存しておくことができます。登録情報を誤って削除してしまったときなどのバックアップのために、登録情報の保存をお勧めします。

■登録情報を保存する

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass コントロールセンター」の順にクリックします。
- 「OmniPass コントロールセンター」ウィンドウが表示されます。

- 2 「ユーザーの管理」タブをクリックします。

- 3 「ユーザーのインポート／エクスポート」をクリックします。

「ユーザーのインポート／エクスポート」ウィンドウが表示されます。

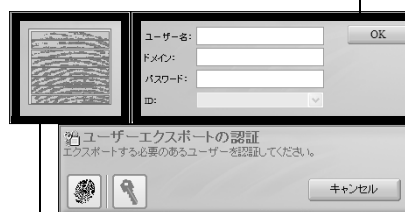
- 4 「OmniPass ユーザープロフィールのエクスポート」をクリックします。

「ユーザーエクスポートの認証」ウィンドウが表示されます。

- 5 登録してある指紋で認証させます。

指紋の認証に成功すると、「エクスポートされたユーザーを名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。

この画面が表示されない場合は、をクリックしてください。



この画面が表示されない場合は、をクリックしてください。

- 6 保存する登録情報の名前を入力し、「保存」をクリックします。

「ユーザーのエクスポート完了」メッセージが表示されます。

ここでは例として「マイドキュメント」フォルダに保存します。保存する登録情報には、好きな名前を付けることができます。

- 7 「ユーザーのエクスポート完了」メッセージで「OK」をクリックします。

✋重要

- ▶ エクスポートした登録情報をインポートする時に、次の入力が必要になります。
- 忘れないよう、何かに書き留めておくことをおすすめします。

- ・ ユーザー名
- ・ パスワード
- ・ コンピュータ名

ユーザーのエクスポート作業が完了し、登録情報が保存されました。

■登録情報を読み込む

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Softex」
→「OmniPass コントロールセンター」の順にクリック
します。

「OmniPass コントロールセンター」ウィンドウが表示されます。

- 2 「ユーザーの管理」タブをクリックします。
- 3 「ユーザーのインポート／エクスポート」をクリックします。

「ユーザーのインポート／エクスポート」ウィンドウが表示されます。

- 4** 「新しいユーザーを OmniPass にインポートする」をクリックします。

「ファイルを開いてユーザーをインポートします」ウィンドウが表示されます。

- 5** 保存してある登録情報を選択し、「開く」をクリックします。

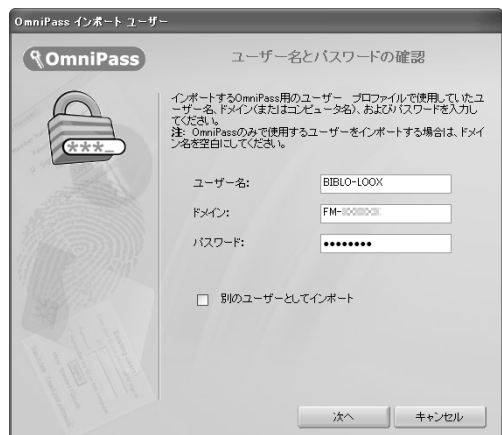
「OmniPass インポートユーザー」ウィンドウが表示されます。

- 6 ユーザー名、ドメイン、パスワードを入力し、「次へ」をクリックします。**

「OmniPass のユーザーインポートが完了しました」というメッセージが表示されます。

ユーザー名、パスワードおよびドメインには、エクスポートした登録情報で使用していたものと同じものを入力してください。

ドメインには、通常コンピュータ名を入力します。



 POINT

- ### ▶ コンピュータ名の確認方法

指紋認証の登録情報に設定するためのコンピュータ名は、次の方法で確認することができます。

1. 「スタート」ボタンをクリックします。
2. 「マイコンピュータ」を右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3. 「コンピュータ名」タブをクリックします。
4. 「フルコンピュータ名」に設定されている名前がコンピュータ名です。



- 7 「OK」をクリックします。**

- 8** パソコンを再起動します。

パソコンを再起動することにより、読み込んだ（インポートした）登録情報が有効になります。

BIOS の設定をご購入時の状態に戻す

BIOS セットアップの設定値を、本パソコンご購入時の状態に戻す方法について説明します。

本パソコンを起動し、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に【F2】キーを押すと、BIOS セットアップが起動します。BIOS の設定値をご購入時の状態に戻すには、「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」を実行したあと、設定を保存して BIOS セットアップを終了してください。

重要

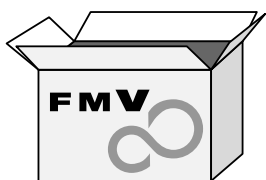
- ▶「標準設定値を読み込む」を実行しても、管理者用パスワード、ユーザー用パスワード、ハードディスクパスワード、所有者情報は、現在お使いの状態のまま変更されません。

マイリカバリについて

マイリカバリとは

「マイリカバリ」を使ったリカバリについて、簡単に説明します。

① ○月○日 利用開始



② ○月△日 いろいろな設定をする



メールを設定した



インターネットに
接続する設定をした

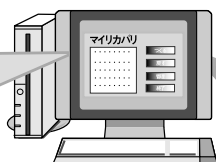


自分で用意した
ソフトウェアを
インストールした

③ 「マイリカバリ」でディスクイメージを作成



マイリカバリ

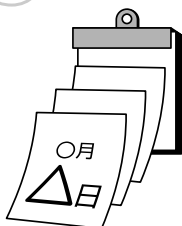


○月△日の
ディスクイメージ



○月△日のいろいろな設定した状態をそのまま
保存してディスクイメージを作成しておきます

④ ○日後…



⑤ トラブル発生!



でも

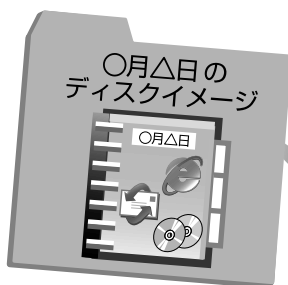
⑥ いざというときに備えて ディスクイメージを 作っておいたので…

大丈夫!



⑦ 「マイリカバリ」で作成したディスクイメージを使ってリカバリをする

○月△日に行ったいろいろな設定をした時点の状態に戻すことができます



復活!



さあ、実際に「マイリカバリ」でディスクイメージを作成してみましょう

「マイリカバリ」でできること

「マイリカバリ」は、ハードディスク（Cドライブのみ）をまるごとディスクイメージとして保存しておき、必要なときにディスクイメージを保存したときと同じ状態に戻すことのできるソフトウェアです。

「マイリカバリ」を使ったリカバリを行うにはどのような作業が必要か、簡単に説明します。

■ディスクイメージを作成する

ディスクイメージとは、ハードディスクに格納されたあらゆる情報のコピーが保存されているファイルです。

「マイリカバリ」では、CドライブのデータをまるごとディスクイメージとしてDドライブに保存します。CドライブをまるごとDドライブにバックアップしておくようなものと考えればよいでしょう。

■ディスクイメージを復元する

ディスクイメージを復元して、Cドライブを前の状態に戻すことを、「マイリカバリ」を使ったリカバリをするとも言います。

ディスクイメージを使ったリカバリを行うと、Cドライブが、ディスクイメージを保存したときと同じ状態に戻ります。

■こんなときに便利です

万が一、何らかの不具合が生じてパソコンの調子がおかしくなったときに、パソコンの調子が良かったときの状態をそのまま保存したディスクイメージが作ってあれば安心です。ディスクイメージが作ってあれば、「マイリカバリ」を使って、簡単な操作でパソコンを調子の良かったときの状態に戻すことができます。

ただし、パソコンをご購入されたときの状態では、ディスクイメージはまだ作成されていません。

セットアップやセキュリティ対策などの設定をひととおり終えた後は、「マイリカバリ」でディスクイメージを作っておくことをお勧めします。Cドライブのバックアップとして、定期的にディスクイメージを作成しておくのもお勧めです。

「マイリカバリ」の使い方～ディスクイメージを作成する

いざというときに備えて、Cドライブのディスクイメージを作成しておくことで安心です。

ここでは、「マイリカバリ」でディスクイメージを作成する方法を説明します。

重要

- ▶ パソコンに不具合が起きているときは、ディスクイメージを作成しないでください
ディスクイメージを作成すると、パソコンのCドライブをそのままの状態では保存するため、不具合も保存されてしまい、復元時に不具合も復元してしまいます。パソコンに不具合が起きているときはディスクイメージを作成しないでください。
- ▶ 外付けハードディスクは必ず取り外してください
外付けハードディスクを接続している場合は、ディスクイメージを作成する前に、必ず取り外してください。
外付けハードディスクが接続されていると、ディスクイメージが作成できません。

- 1 デスクトップの（マイリカバリ）をクリックします。
「マイリカバリ」の概要を説明する「マイリカバリとは」ウィンドウが表示されます。
- 2 （閉じる）をクリックします。
「マイリカバリとは」ウィンドウが閉じて、「マイリカバリ」が表示されます。
- 3 「つくる」をクリックします。

POINT

- ▶ Dドライブの空き容量が不足しているというメッセージが表示された
「マイリカバリ」で作成されるディスクイメージはDドライブに保存されるため、Dドライブの空き容量が足りない場合に表示されます。
次の方法でDドライブの空き容量を増やしてください。
 - ・「マイリカバリ」の「管理」で不要なディスクイメージを削除する
 - ・Dドライブにある不要なファイルを削除する
- 4 コメント入力域に、作成するディスクイメージに付けるコメントを入力し、「次へ」をクリックします。
- 5 「OK」をクリックします。
しばらくすると、パソコンが再起動し、使用許諾が表示されます。

POINT

- ▶ ㊦「リカバリのディスクをセットするよう要求してきた場合

お使いの状況により㊦「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」が必要になります。

㊦「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」を用意し、次の操作を行ってください。

1. ㊦「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」をセットして、しばらく待った後に表示される画面で「OK」をクリックします。
パソコンが再起動します。
2. 再起動したら、FUJITSU のロゴ画面の下にメッセージが表示されている間に、【F12】キーを押します。
軽く押しただけでは認識されない場合があります。画面が切り替わるまで何度も押してください。
3. 表示された起動メニューで【↓】キーを押して CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
使用許諾が表示されます。使用許諾が表示されず、Windows が起動してしまった場合は、パソコンを再起動し、Point 内手順 2 からの操作を行ってください。

- 6 使用許諾の内容に同意していただいた場合は、「同意します」をクリックします。

- 7 「次へ」をクリックします。

- 8 「実行」をクリックします。

- 9 ディスクイメージを作成し始めます。しばらくお待ちください。

しばらくすると、「イメージファイルを作成しました。」と表示されます。

- 10 「完了」をクリックします。

Windows が再起動します。手順 5 の後に㊦「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」をセットした方は、再起動後にディスクを取り出してください。

これで、「マイリカバリ」により、ディスクイメージが D ドライブに作成されました。

「マイリカバリ」の使い方～ディスクイメージを復元する

「マイリカバリ」であらかじめ作成しておいたディスクイメージを、復元する方法を説明します。

重要

- ▶ ディスクイメージを作成した後に保存したファイルは失われます
ディスクイメージを復元すると、C ドライブが、ディスクイメージを作成した時点の状態に戻ります。よって、ディスクイメージを作成した後に C ドライブに保存したファイルは、すべて失われます。ディスクイメージを作成した後に保存したデータは、D ドライブや CD/DVD などの別の媒体にバックアップをしてください。
- ▶ 外付けハードディスクなどは必ず取り外してください
外付けハードディスクなどを接続している場合は、ディスクイメージを復元する前に、必ず取り外してください。
外付けハードディスクなどが接続されていると、ディスクイメージが復元されません。

- 1 本パソコンを起動します。
- 2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。
- 3 【↓】キーを押して、「<マイリカバリ>」を選択し、【Enter】キーを押します。
使用許諾が表示されます。

POINT

- ▶ Windows が起動している状態から「マイリカバリ」を始めることもできます
 1. デスクトップの（マイリカバリ）をクリックします。
 2. （閉じる）をクリックします。
「マイリカバリ」が表示されます。
 3. 「もどす」をクリックします。
 4. 「OK」をクリックします。
パソコンが再起動し、使用許諾が表示されます。
 5. 「同意します」をクリックします。
 6. 手順 6（→ P.38）に進みます。

- 4 内容に同意された場合は、「同意します」をクリックします。
- 5 「マイリカバリ」タブをクリックし、「マイリカバリで戻す」をクリックして、「実行」をクリックします。

- 6 画面に表示された使用条件に同意していただいた場合は、「同意する」をクリックして、「次へ」をクリックします。
- 7 「マイリカバリ」で作成したディスクイメージを選択します。
ここで選んだディスクイメージを使ってリカバリされます。
- 8 「次へ」をクリックします。
- 9 「リカバリを実行」をクリックします。
ディスクイメージを使ったリカバリが始まります。
- 10 そのまましばらくお待ちください。
しばらくすると、「リカバリが完了しました。」と表示されます。
- 11 「OK」をクリックします。
Windows が再起動します。

これで、「マイリカバリ」で作成したディスクイメージを使ったリカバリが完了しました。

リカバリについて

Windows が起動しないなどの問題が発生した場合、またはハードディスクの領域を変更したい場合は、リカバリを行います。

リカバリの概要と注意事項

リカバリとは、「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」を使用して、OS、ドライバなどのブレインストールソフトウェアをご購入時の状態に戻す操作です。

注意事項

- リカバリを行うと、C ドライブのデータはすべて失われます。必要に応じて事前にバックアップしておいてください。
- リカバリ時には、必ず AC アダプタを接続してください。
- リカバリを行う場合は、タブレットモードではなく、液晶ディスプレイを通常の状態にしてください (→ P.16)。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- リカバリを終えてセットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示されることがあります。
- 本書ではスティックポイントおよびマウスでの操作を前提に記述してあります。ペンには使用できません。

- リカバリには時間がかかります。時間に余裕を持って、操作を実行してください。

リカバリ方法

リカバリを実行する前に、次の準備をしてください。

- ポータブル CD/DVD ドライブを接続する。
 - 「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」を用意する。
- 1 本パソコンを起動します。
 - 2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。
「起動メニュー」が表示されます。

POINT

- ▶「起動メニュー」が表示されない場合は、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本パソコンを再起動し、もう一度操作してください。

- 3 「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」をセットします。
- 4 「CD-ROM ドライブ」を選択し、【Enter】キーを押します。
しばらくすると、「使用許諾」ウィンドウが表示されます。
- 5 「使用許諾契約書」をよく読み、「同意します」をクリックします。
リカバリ & ユーティリティメニューが表示されます。
- 6 メニューから「リカバリの実行」を選択し、「実行」をクリックします。
- 7 「ソフトウェアの使用条件」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 8 「リカバリを実行」をクリックします。
リカバリが始まります。そのまましばらくお待ちください。
- 9 「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 10 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されている間に、【F12】キーを押します。
「起動メニュー」が表示されます。
- 11 ポータブル CD/DVD ドライブを取り外します。
- 12 「起動メニュー」から「ハードディスクドライブ」を選択し、【Enter】キーを押します。
本パソコンが再起動します。
- 13 「セットアップ」(→ P.18)を参照して Windows のセットアップを行います。

以上でリカバリ操作は終了です。

お客様が実行したセキュリティ対策や各種設定内容は、実行前の状態に戻っています。セットアップ後、「Windows Update」などのセキュリティ対策を行ってください。また、必要に応

じて、ドライバやアプリケーションのインストールや設定などを行ってください。

マニュアルのダウンロード

ホームページから電子マニュアルをダウンロードできます。
サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「ドライバダウンロード」から機種を選択し、「富士通 FMV マニュアル」をダウンロードしてください。

リサイクルについて

■本製品の廃棄について

本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

●液晶ディスプレイについて

本製品の液晶ディスプレイ内の蛍光管には水銀が含まれております。

●個人のお客様へ

本製品を廃棄する場合は、必ず弊社専用受付窓口「富士通パソコンリサイクル受付センター」をご利用ください。
詳しくは、「富士通パソコンリサイクル受付センター」のホームページ（<http://azby.fmwworld.net/recycle/>）をご覧ください。

●法人・企業のお客様へ

本製品の廃棄については、弊社ホームページ「IT 製品の処分・リサイクル」（<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>）をご覧ください。

■使用済みバッテリーの取り扱いについて

- ・リチウムイオン電池のバッテリーパック、バッテリーユニットは、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。
- ・使用済みバッテリーは、ショート（短絡）防止のためビニールテープなどで絶縁処理をしてください。
- ・バッテリーを火中に投げると破裂のおそれがありますので、絶対にしないでください。

バッテリーの仕様については、『ハードウェアガイド』（PDF）の「技術情報」－「仕様一覧」をご覧ください。

●個人のお客様へ

使用済みバッテリーは廃棄せずに、充電式電池リサイクル協力店に設定してあるリサイクルBOXに入れてください。詳しくは、有限責任中間法人 JBRC のホームページ（<http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html>）をご覧ください。
弊社は JBRC（小型二次電池再資源化推進センター）有限責任中間法人 JBRC に加盟し、リサイクルを実施しています。



このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

Li-ion

●法人・企業のお客様へ

法人、企業のお客様は、弊社ホームページ「IT製品の処分・リサイクル」（<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>）をご覧ください。

■使用済乾電池の廃棄について

ワイヤレスキーボードなどには乾電池を使用しており、火中に投げると破裂のおそれがあります。

使用済乾電池を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

●個人のお客様へ

使用済乾電池を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

●法人・企業のお客様へ

使用済乾電池を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社へ処分を委託してください。

Memo _____

お問い合わせ先について

■お問い合わせ先

次の連絡先へお問い合わせください。

こんなときには	こちらへ
故障かなと思われたとき	『ソフトウェアガイド』(PDF)の「トラブルシューティング」をご覧ください。 それでも解決できない場合は、ご購入元にご相談いただくか、『サポート&サービスのご案内』をご覧ください。
添付のソフトウェアのお問い合わせ	『ソフトウェアガイド』(PDF)の「トラブルシューティング」をご覧ください。
技術的なご質問・ご相談	『ソフトウェアガイド』(PDF)をご覧ください。それでも不明な点がございましたら『サポート&サービスのご案内』をご覧ください。
富士通サプライ品のご購入	富士通サプライ品のご購入については、「富士通コワーコ株式会社」の「お客様総合センター」までお問い合わせください。 <お問い合わせ先> フリーダイヤル：0120-505-279 受付時間：9：00～17：30（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く） URL：http://jp.fujitsu.com/coworco/

FMV-BIBLO LOOX P70S

取扱説明書
B6FH-9661-01-00

発行日 2006 年 4 月
発行責任 富士通株式会社

〒 105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

Printed in Japan

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

0603-1